日本工学院八王子専門学校開講年度			2019年度(5	平成31年度)	科目名	音楽基礎 2			
科目基礎情報									
開設学科	ミュージックアーティス	スト科	コース名	ヴォーカリストコース		開設期	後期		
対象年次	1年次	科目区分	必修			時間数	60時間		
単位数	4 単位	授業形態	講義						
教科書/教材	B/教材 やさしく楽しく楽譜の読み方、全訳コールユーブンゲン、ギターを弾いているだけで音感がアップする方法								
担当教員情	日当教員情報								

早川・小澤・澤田 実務経験の有無・職種 有・ミュージシャン 担当教員

学習目的

音楽に関わるものとして必要な基礎知識を学ぶことが必要である。この授業の演習では、楽譜の読み方や楽譜に対する知識を深め、簡単な楽譜(玉譜)を読 むトレーニングを行う。音楽の基礎能力とされる音感、リズム感、和声感、読譜力の育成を目指し、総合的音楽能力を高め、いかに音楽的な表現に結びつ けていくのか、より良い音楽を創り上げるための基礎を学ぶ。またこの授業の座学では、音楽理論を理解する上で、ある程度楽器が弾ける方が頭の中だけ で考えるより、視覚的な事も含め早く的確である。後期は前期に学んだギターの知識を活用しながら感覚的に理論の体得を目指していく。

到達目標

本科目の講義はグレード対応科目となっている。後期からは前期で学んだギターを活用しながらハーモニー・リズムの習得を目指す。前期の内容をもと に後期では進級公演で演奏する曲の楽譜を学び、楽譜の意味、読み方を理解し、いかに簡単に素早く楽譜を読むことができるかのポイントを理解する。そ れとともに簡単な音楽知識(音名、音部記号、音符の種類、拍子、リズムの種類)などについても理解し、ヴォーカリストとしての技能を体得することを到達 目標にしている。

教育方法等

理論の体得を歌いながら学ぶ・楽器を弾きながら学ぶという方式で進めていく。全訳コールユーブンゲン(大阪開成館発行)をベースとしなが ら譜面のとおりに歌うというカリキュラムで授業が進行する。説明だけだと少々難解な音楽理論を早く的確に習得する事を目指す。受講者に とって理解を深める事ができる目的でクラス分けを行い、グループレッスン形式で進行していく。初心者だけでなく上級者もさらに譜読みが早 授業概要 くなるよう向上心を持って授業に取り組んでいくことを目指す。

注意点

キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでな く、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める(詳しくは、最初の授業で説明)。音楽業界の動きや最先端プレイ ヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験 することができない。

	種別	割合	備 考						
評	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する						
価	小テスト	10%	受業内容の理解度を確認するために実施する						
方	実技	20%	受業内容の理解度を確認するために実施する						
法	成果発表	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する						
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する						

授業計画(1回~15回)

□	授業内容	各回の到達目標
1回	楽譜	グレード1に対応。五線譜(五線と加線)、小節線、音名、音部記号がわかる。
2 回	音符の種類(1)	グレード1に対応。音符、休符が記譜できる。教科書P62が歌える。
3 💷	音符の種類(2)	グレード4に対応。音符を見やすく書ける。教科書P62以降より数曲が歌える。
4 回	拍子とリズム	グレード2、3に対応。シンコペーションがわかる。教科書P62以降より数曲が歌える。
5 回	音のつながり(1)	半音階12音がわかる。教科書P62以降より数曲が歌える。
6 回	音のつながり(2)	グレード9に対応。音階(スケール)、調号が判別できる。8小節の譜面速読ができる。
7回	音の幅(1)	グレード8に対応。長・短・完全音程がわかる。8小節の譜面速読ができる。
8回	音の幅(2)	グレード8に対応。増・減音程がわかる。8小節の譜面速読ができる。
9 回	音の幅(3)	グレード8に対応。重増・重減音程がわかる。8小節の譜面速読ができる。
10回	音の調和(1)	グレード5に対応。ダイアトニックコードがわかる。オリジナルメロディを歌唱できる。
110	音の調和(2)	グレード6に対応。協和和音・不協和和音がわかる。オリジナルメロディを歌唱できる。
12回	音楽の用語と記号(1)	グレード7に対応。楽譜演奏の順序がわかる。オリジナルメロディを歌唱できる。
13回	音楽の用語と記号(2)	グレード10に対応。音の表現方法、速度の表し方がわかる。オリジナルメロディを歌唱できる。
14回	調と調の関係	移調、転調、同主調、平行調がわかる。オリジナルメロディを歌唱できる。
15回	まとめ	全体のまとめ

日本工学院八王子専門学校 開講年度 2			2019年度(平成31年度) 科目名 音楽基礎 2			音楽基礎 2	!		
科目基礎情	科目基礎情報								
開設学科	ミュージックアーティス	スト科	コース名	サウンドク	リエイター	コース	開設期	後期	
対象年次	1年次	科目区分	必修			時間数	60時間		
単位数	4 単位	授業形態	講義						
教科書/教材	教科書/教材 教科書:オーケストレーション(宅美秀俊)・音楽理論ワークブック 毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。								

担当教員情報

担当教員 三宅・BAN 実務経験の有無・職種 有・ミュージシャン

学習目的

サウンドクリエイターとして自分の演奏する楽器以外の知識と理解が不可欠である。この授業ではオーケストラで使われている各楽器の特性・奏法を理解し、室内楽やオーケストラ編成での編曲に活かせるようにする。また楽譜の読み方を身につけて、劇伴やゲーム音楽の作曲や編曲に活かし、音楽制作や音楽上でのコミュニケーションを円滑に進める。音やリズム、楽譜に関する知識、用語、理論を身につけて知識を覚えるだけでなく、音から感じたものを書くこと、聴いて書き取ることを実施し、メロディーやリズムを採譜できるスキル、既存曲やオリジナル曲を楽譜にできるスキルを身につけることを目的とする。

到達目標

オーケストラで使われる各楽器の知識と理解を深め、記譜法(スコア・パート譜)を知り、室内楽やオーケストラ編成で編曲・作曲できることを到達目標とする。後期では前期に学んだ各楽器の知識と実習を活かして「紅葉」や「カノン進行」を題材にオーケストレーションを実施する。グレード対応科目として1年次後期はグレード6~10に準処して進行する。到達目標は音符休符の種類、リズムの表記法、音名を理解し、読み、五線譜上に書けるようになる。音楽用語、標語、記号を活用できるようになる。コードについての音構成、表記を理解し、鍵盤で押さえられるようになる。コードの響きの違い(マイナーかメジャーかdimかaug)を聴いてわかる。響きの違いをコードネームで言える。

教育方法等

授	業	概	要
1/	_	170	\sim

集団講義形式で進行する。教科書に「3つのケーススタディでよくわかるオーケストレーション」(宅美秀俊)を用いて各楽器の特性を知るだけでなく、既成の曲を題材に室内楽やオーケストラの編成でオーケストレーションできることを目指す。またクラシック音楽作品を鑑賞し、その醍醐味・記譜法を学び、オーケストレーションに活かす。板書をノートに書くことで理解を進める。授業内容によっては課題プリントを解くことで理解する。学習内容と照らし合わせ音楽理論ワークブックを活用し、課題問題によって理解度をチェックする。

注意点

キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める(詳しくは、最初の授業で説明)。音楽業界の動きや状況などを概説するので、自分でも、情報を収集し、基礎力や知識の向上に努めること。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

	種別	割合	備 考						
評	試験	35%	試験と課題を総合的に評価する						
価	小テスト	15%	業内容の理解度を確認するために実施する						
方	提出物	15%	受業内容の理解度を確認するために実施する						
法	成果発表 (口頭・実技)	15%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する						
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する						

授業計画(1回~15回)

	授業内容	各回の到達目標
1 🗓	4 和音(1) 6 th、 7 th、 M 7 th	3 和音に付加する音を演奏できる。アレンジの構想を組み立てることができる。
2 回	4 和音(2) 6 th、 7 th、 M 7 th	3 和音に付加する音を演奏できる。テーマ部分にリハーモナイズを行い新たなコードを設定できる。
3回	4 和音(3)dim 7 ,m7(♭ 5),sus4系	dim系コード演奏ができる。室内オーケストラ+ピアノ編成のアレンジができる。(1)
4 回	定番のコード進行を弾く	頻出するコード進行の演奏ができる。室内オーケストラ+ピアノ編成のアレンジができる。(2)
5回	音程(1)度数	音程を度数で答えることができる。室内オーケストラ+ピアノ編成用のアレンジができる。(3)
6回	音程(2)長、短音程	2、3、6、7度の音程がわかる。前奏と間奏部分のアレンジができる。
7回	音程(3)完全音程と増、減	1、4、5、8度の音程がわかる。2コーラス目のアレンジができる。
8回	音程(4)和音のインターバル的理解	長短、完全、増、減の音程がわかる。後奏部分のアレンジができる。
9回	音程、コード 小テスト	カノン進行を4パートの弦楽器セクションに展開できる。小テスト
10回	メジャーKey.(1)スケールと調号 #系	#系の調号の主音(key)がわかる。カノン進行を5パートの弦楽器セクションに展開できる。
110	メジャーKey.(2)スケールと調号 り系	#系の調号の主音(key)がわかる。カノン進行に木管楽器&金管楽器パートを追加できる。
12回	メジャーKey.(3) 5 度圏	5度圏の図表を自力で作成できる。カノン進行+後奏にトゥッティによるボレロ風アレンジを施す
13回	メロディー採譜(1)	メロディー採譜ができる。自作曲または好きな既成曲のオーケストレーションができる。(1)
14回	メロディー採譜(2)	メロディー採譜ができる。自作曲または好きな既成曲のオーケストレーションができる。(2)
15回	後期まとめ	全体のまとめ

日本工学	院八王子専門学校	開講年度	2019年度(3	119年度(平成31年度) 科目名 音楽基礎			2	
科目基礎情	科目基礎情報							
開設学科	ミュージックアーティ	ィスト科	コース名	プレイヤー	-コース		開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修			時間数	60時間	
単位数	4 単位	授業形態	講義					
教科書/教材	科書/教材 音楽理論ワークブック、ドラムパターン大辞典326							
担当教員情	担当教員情報							

担当教員 月野・野村・伊藤 実務経験の有無・職利有・ミュージシャン

学習目的

音楽を作曲、編曲、演奏する上で、音楽理論を学ぶことは不可欠である。また、既存の音楽を正確に演奏するだけでなく、新しい音楽を 生み出し後世に伝えていくには、正しい音楽用語や記譜法を学ぶことは不可欠である。講義では、教科書「決定版 音楽理論ワークブック ポピュラー音楽を完全理解」を使用し、四和音、音程、メジャーkey、コード進行、調性といった音楽理論の基礎的かつ総合的な知識を身に つけることを目的とする。楽器の演奏においてスケールはメジャースケール、マイナースケールなど指板上での複数のポジションで弾ける スキルの体得を目的とする。ドラムにおいて、アコースティック編成の両方に対応できるドラミング、スティックコントロール、両手両足 のコンビネーション、バランス、アドリブなどに対応できるバッキングのグルーヴ感の増強、自由度が高い奏法を習得することを目的とす

到達目標

教科書「決定版 音楽理論ワークブック ポピュラー音楽を完全理解」を使用し、四和音、音程、メジャーkey、コード進行、調性といっ た基礎的かつ総合的な音楽理論の知識を身につけ、正しい音楽用語や記譜法を習得することを目標とする。その知識を生かし、より自由度 の高い芸術性のある音楽作品の作曲や編曲、演奏ができるようになることを目標とする。また、既存の音楽作品に対してメロディーを正しく 採譜し、調性についての判定ができるようになることを目標とする。メジャースケール、マイナースケール、および平行調の把握、ペンタ トニックスケール等各種スケールを指板上で認識できるように「全ポジションの音名把握」を到達目標とする。また、各コード進行に対し て適切なスケールの選定、使い方も同時に理解を進め、ジャンルに偏らないミュージシャンとしての基礎を固める事と、音楽的な柔軟性を 養う。コードとスケールにおいては、響の確認も同時に行いミュージシャンとしてスキルアップを目指す。

教育方法等

この授業では、グレード対応科目となっており、1年次後期はグレード6~10に準拠して授業が進行する。シックス、セブン ス、ドミナントセブンスコード、フラットファイブ、オーグメント、ディミニッシュセブンスコードなどの四和音について、主 |授業概要| 要和音やそれ以外のダイアトニックコードの役割、ダイアトニックコードプログレッションについて、度、完全音程、長音程、 短音程、増音程、減音程などの音程、メジャーKey、メロディーの採譜や調判定について学び、正しい音楽用語や記譜法の習得 を目指す

学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対 応する。授業内でセクションごとに小テストを行い、理解度の確認を行う。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席する だけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める(詳しくは、最初の授業で説明)。授業時数 の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

注意点

評価方法 -	種別	割合	備 考							
	試験	20%	試験と課題を総合的に評価する							
	小テスト	30%	授業内容の理解度を確認するために実施する							
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する							
	成果発表 (口頭・実技)	10%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する							
	平堂 占	20%	積極的な授業参加度 授業能度によって評価する							

授業計画(1回~15回)

口	授業内容	各回の到達目標
1 💷	4和音(1)	グレード6対応 シックス、セブンス、ドミナントセブンスコードを理解する
2 回	4和音(2)	グレード6対応 フラットファイブ、オーグメント、ディミニッシュセブンスコードを理解する
3回	4和音(3)	グレード6対応 四和音の転回形、基本和音、付加和音、変化和音を理解する
4 🗆	音程(1)	グレード8対応 度、完全音程、長音程、短音程、増音程、減音程を理解する
5 回	音程(2)	グレード8対応 2音間の音程について理解する
6回	音程(3)	グレード8対応 転回音程、複(複合)音程、協和音程と不協和音程を理解する
7 回	メジャーkey(1)	グレード9対応 長音階と調号を理解する
8 💷	メジャーkey(2)	グレード9対応 サークルオブフィフスを理解する
9回	コード進行(1)	グレード7対応 長音階上の三和音と四和音、実用和音を理解する
10回	コード進行(2)	グレード7対応 主要和音を理解する
110	コード進行(3)	グレード7対応 主要和音以外のダイアトニックコードの機能を理解する
12回	コード進行(4)	グレード7対応 ダイアトニックコードプログレッションを理解する
13回	調性(1)	グレード10対応 講師指定のメロディーを採譜できる
14回	調性(2)	グレード10対応 講師指定のメロディーの調判定ができる
15回	まとめ	全体のまとめ